DPC入院期間Ⅲの患者減少に向けた取組 第1報

～多職種連携によるベッドコントールの強化～

見田野 直子[1)] 中居 享美[1)] 吉田 淳子[1)] 樽見 桂子[1)] 町田 恵理子[1)]
高橋 陽子[1)] 瀬間 良礎[2)] 松浦 敬宣[3)] 風晴 俊之[3)] 美原 盤[4)]
1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部
2)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 連携室
3)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 事務部
4)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに]DPC制度において在院日数管理は重要な課題である。令和4年度に一般病棟の入院期間Ⅲの患者が増加したため、令和5年2月からDPC入院期間Ⅲの患者減少に向けて取り組みを開始した。ベットコントロールのため入院期間Ⅱの患者についてⅢへ移行までの期間を可視化、さらに転床予測時期の管理表を作成し多職種間で共有した。
[方法]令和4年4月から令和5年1月までの期間(取組前群)と令和5年2月から3月の期間(取組後群)について、入院期間Ⅲの割合と平均在棟日数を比較した。
[結果]入院期間Ⅲの割合は、取組前群17.8%、取組後群6.7%と有意に減少し($p<0.05$)、平均在棟日数も、取組前群8.2日、取組後群7.5日と短縮した。
[考察]入院期間Ⅲの患者減少に向けたベットコントロールを行うためには、一般病棟の看護管理者のみならず後方病棟の看護管理者、入退院支援部門、事務部などが連携し、各職種が適切に機能することが求められる。